

革命後の断固たる方針

一九一七年

……

二 ロシア社会民主労働党（ボ）ペトログラード委員会へ

ペトログラード委員会へ

至急妥協政策に反対する決議を採択し、中央委員会に提出するよう、ペトログラード委員会にぜひおねがいます*。

レーニン

第44巻『ロシア社会民主労働党（ボ）ペトログラード委員会へ』P1～2

1917年11月2(15)日に執筆 手稿によって印刷

事項訳注 P615 - 616

*「ボリシェヴィキから人民社会主義者にいたる」、さまざまな政党や団体の代表から成る、いわゆる「同質の社会主義政府」を組織する問題についての党ペトログラード委員会の決議をさす。そのなかで指導的な役割を占めようとねらっていたメンシェヴィキとエス・エルが、この種の政府を組織することを要求していた。党中央委員の一部——カーメネフ、ジノヴィエフ、リュコフ、彼らの少数の支持者は、メンシェヴィキ、エス・エルの提案を支持した。1917年11月2(15)日にひらかれたボリシェヴィキ党中央委員会の会議は、降伏主義者の右翼日和見主義的、協調主義的な立場をきびしく非難した（本全集、第26巻、282 - 284 ページを参照）。中央委員会の会議中、レーニンはこの短信用を書いたらしい。

レーニンの短信用は、党ペトログラード委員会の会議で読みあげられた。採択された現在の情勢についての決議のなかで、ペトログラード委員会は、労働者・兵士・農民代表ソヴェト政府がプロレタリア共和国の政府であるべきこと、また、ボリシェヴィキのかかげた綱領の実現がソヴェト権力の任務であって、この綱領からのどんな逸脱も許されないことを声明した。この決議は、党中央委員会へ送られた。

11月3(16)日、中央委員会は少数反対派に最後通告をつきつけて、中央委員会の諸決定に完全に服することを同派に要求した（本全集、第26巻、285 - 287 ページを参照）。ところが協調主義者は、党規律に服することを拒否して、中央委員会と人民委員会議から脱退した。中央委員会はストライキ破りを痛烈に非難した（本全集、第26巻、309 - 310 ページを参照）。政府には党の事業に忠実な新しい人たちがはいった。

第26巻『ロシア社会民主労働党（ボリシェヴィキ）中央委員会から』P309～310

1917年11月5日か6日（18日か19日）に執筆

ロシア社会民主労働党（ボリシェヴィキ）中央委員会から

同志カーメネフ、ジノヴィエフ、リャザノフ、ラーリンへ、

中央委員会は、諸君の政策のもっとも著名な代表者（カーメネフとジノヴィエフ）に、すでに一度、最後通牒をつきつけて、中央委員会の諸決定とその方針に完全に服従し、中央委員会の活動のサボタージュと組織破壊活動とを完全に放棄するように要求した〔本巻、285~287 ページ〕。

諸君の政策の代表者たちは、中央委員会を脱退はしたが、党内にとどまっており、まさにそのことによって、中央委員会の決定にしたがう義務を負ったのである。ところが、諸君は、党内で批判することだけにとどまらず、まだおわっていない反乱と戦う人々の隊列に動揺をもちこみ、党の規律に違反して、わが党のわくのそとで、すなわちソヴェト、地方自治機関、労働組合などのなかで、中央委員会の決定をふみにじり、中央委員会の活動を妨げることを継続している。

以上を考慮して、中央委員会は、自分の最後通牒をくりかえさざるをえず、中央委員会の決定に服して、諸君のすべての言動において、中央委員会の政策を実行することを即時書面で約束するか、それとも、つぎの党大会までは、いっさいの公けの党活動から退き、労働運動上のすべての責任ある部署を放棄するか、どちらかするように諸君に提案せざるをえない。

この二つの約束のうちの一つをあたえることを拒否するなら、中央委員会は、諸君を党から即時除名する問題を提起せざるをえない。